

1 教育目標（目指す児童像含む）

よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるように、確かな学力と豊かな心、健やかな体を持ち、これからの社会を力強く生き抜くことができる力をもった、たくましい児童を育成する。

- ・ 進んで学び、基礎・基本をしっかり身につける子 （しっかり学ぶ 泉っ子）
- ・ 学びをもとに考え、問題解決ができる子 （よりよく生かす 泉っ子）
- ・ 自分の生き方を考え、誠実で思いやりがある子 （なかよく生きる 泉っ子）
- ・ 健康や安全に気をつけ、元気に生活できる子 （元気でがんばる 泉っ子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「児童一人一人が、みんなとともに生き生きと輝く学校」を目指す。

- ・ 児童が夢と希望を持ち、明るく活気に満ちた学校
- ・ 気持ちのよい環境で、温かい心の触れ合いにあふれ、仲間とともに仲よく学べる学校
- ・ 家庭・地域と連携した教育活動を推進し、信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 一人一人を大切に、全人教育を目指す学校 【一人一人の児童を大切にしよう】

一人一人の児童について知・徳・体の調和のとれた成長を促すとともに、個人及び公民的資質の伸長を図り、教育目標の具現に努める。

(2) これからの社会を力強く生き抜くために必要となる資質・能力をしっかりと育成する学校

【日々の授業に力を尽くそう】

全ての教科領域で、「基礎的・基本的な知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」を通じた質の高い教育の充実に努める。

(3) 児童の思いを豊かにする学校 【子供が通いたくなる学校・学級をつくろう】

豊かな感性を育て、互いに高め合える学級集団の育成を推進し、いじめ・不登校・集団不適應等、児童指導上の課題解決に努める。

(4) 創意ある「社会に開かれた教育課程」を編成・実施し、家庭・地域に信頼される学校

【地域や保護者と共に子供たちの未来を考えよう】

伝統ある校風を基盤に、児童・保護者・地域の実態や思いを共有し、創造的・計画的に連携を進めて、地域の信頼と要請に応え、公教育の使命を果たすように努める。小中一貫教育の推進にも積極的に取り組む。

(5) 教職員が自ら学び生き生きと勤務する学校 【自ら学び生き生きと働こう】

教職員としての自覚と使命感を持って、一人一人が絶えず研究と修養に努めるとともに、教師自身の生活の質を改善し、生き生きと働けるようにする。

【泉が丘地域学校園教育ビジョン】

望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成

～学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉～

泉が丘中・今泉小・泉が丘小の3校が連携・一貫して「学び・共に行動し・鍛える」教育活動に取り組むことにより、3校共通の学校経営の重点である「児童生徒の人間関係構築力」の育成を図り、相互に関わり合いながら「共に学ぶこと」「共に行動すること」「共に生きること」について考えさせることにより、各校における教育課程実践の充実・深化を図る。

4 教育課程編成の方針

(1) 学校教育目標達成のために設定された学校経営の理念及び学校経営の方針、地域学校園の教育ビジョン、今年度の重点目標、今年度の努力点や具体策を踏まえ、全教育課程に意図的・計画的・系統的にその具現化を図るため、教科等横断的な視点に立って編成する。

(2) 児童の学校生活の場として設定している、朝の活動、授業時間（各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間＜泉の時間＞、特別活動）、休み時間（業間、昼休みを含む）、給食の時間、清掃の時間

を基本的な枠組みとして教育課程を編成し、各教育活動相互の関連とその配置のバランスを図り、時数を確保する。

- (3) 年間的な枠組みとしての2学期制をもとに、教育内容の設定と授業・教育活動時間相互の有機的な関連、及び効果的な教育活動の規模等について、計画的かつ重点化が図られ、柔軟性をもちながら機能的であり、教育活動全体として一貫性を確保しながら調和のとれた実施計画を作成することにより、学校教育目標の達成を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営 **グローバル社会に向き合うとともに、郷土愛を醸成する教育の推進**

- ① 学習指導の充実（学力向上）を図ることを最優先と位置づけ、新学習指導要領の趣旨を理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた日々の授業改善の推進を大きな柱として取り組む。
 - ・ 「令和の日本型学校教育」構想のもと ICT を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業推進に取り組む。
- ② 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。
 - ・ 学校経営方針、具体策、本年度の重点目標への取組の様子等を今まで以上に保護者、地域に広く周知していく。新たな課題解決に向けた授業や学校行事等の取組を学校 HP や学校だより、学年だより等で積極的に紹介し、保護者・地域住民の理解と協力を促す。
- ③ 泉が丘地域学校園の小中一貫教育、地域の教育資源の積極的な活用により「学校力」のさらなる向上を図る。
 - ・ 地域の教育力を生かした教育活動（地域人材や教育資源の活用等）を積極的に展開し、「地域とともにある学校づくり」を着実に推進する。
- ④ 勤務時間を意識した働き方改革を推進し、校内の業務の適正化・明確化・効率化を図る。
 - ・ 日常業務の精選や行事・日課の見直し、ICT活用による労力軽減を推進し、限られた時間の中で児童と向き合う時間を確保して適切な指導を行えるようにする。
 - ・ 働き方への教職員の意識改革を進め、自己の充実を図る。

(2) 学習指導 **確かな学力の育成**

単元や題材のまとめを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

- ① 教師が、児童に身に付けさせたい力を明確に認識しておくとともに、授業の目標（めあて・ねらい）を児童自身が確認できるようにし、学習計画をもとにした学習の見通しをはっきりもたせた上で、各教科等の「見方・考え方」を働かせて課題にじっくり取り組めるよう、発問や学習活動を工夫する。
- ② 思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に、「聞く・話す」等言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動を充実させる。
- ③ 本時の目標や評価規準に基づいたまとめや振り返りを確実に行うことにより、児童に「何を学んだのか」を実感させるとともに、振り返りに対する具体的な言葉かけを行い、学習意欲や主体的に学習する態度等を養う。
- ④ 高学年での教科担任制を積極的に推進し、専門性の高い授業展開や効率的な授業研究を行う。

個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業の推進

- ① 情報活用能力等の学習の基盤となる基礎的基本的な資質・能力等を土台とし、ICT 機器を効果的に活用しながら、一人一人の興味・関心・能力に応じた学習活動や学習課題に取り組む学びを充実させるとともに、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら課題に取り組む態度を養う。
- ② プログラミング学習を生かした論理的な思考の育成を図るとともに、教科横断的な視点に立って現代的な課題の解決を図ろうとする学習活動を充実させる。
- ③ 一人一台端末の活用を通して、情報活用能力の定着を図るとともに、よりよい情報の使い手を目指すデジタルシティズンシップ教育を推進する。

(3) 児童生徒指導 **豊かな心を育む教育の推進**

- ① 心の教育の充実により、自信や自己肯定感・自己有用感、規範意識、思いやり等を育成するとともに、これからの社会において特に必要となる、多様な他者とともに協働しながら目標に向かって挑戦するたくましさ等を養う。
- ② いじめをはじめとする問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に向けて、教職員が組織的に対応できる体制づくりを推進する。
- ③ 複雑化する問題へ対処するために家庭との協力はもとより、地域社会・関係機関とも連携を強化した取組の充実を図る。

(4) 健康（保健安全・食育）・体力 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進

- ① 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成するために、自らの健康面や体力面のよさや課題を把握し、自分に応じためあてを設定し、健康（体力・保健・食・安全）について進んで活動に取り組むことができる児童の育成を目指す。
- ② 運動に親しもうとする態度や能力のより一層の育成を目指し、児童の発達段階や実態に応じた運動量を確保した授業（特に投力・持久力向上に向けた運動）、休み時間を活用した運動イベントの企画等の工夫（運動委員会主催等）により運動機会を創出することで、運動の日常化を図る。
- ③ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を定着させるとともに、感染症等の予防についても正しく理解させ、適切な行動をとることができるようにする等、健康で安全な生活を送れるよう指導する。
- ④ 安全教育・安全指導を充実し、危険に対して自らの身を守る行動がとれる児童の育成を目指す。

(5) 特色ある学校づくり等に関する取組

① 育てたい資質・能力

- ・ 基礎・基本をしっかり身に付け進んで学ぼうとする態度を育成する。（しっかり学ぶ 泉っ子）
- ・ 学びを生かして考え、新たな課題解決に向かおうとする資質・能力を育成する。
(よりよく生かす 泉っ子)
- ・ 自分の生き方を考え、誰に対しても誠実に思いやりをもって接する態度を育成する。
(なかよく生きる 泉っ子)
- ・ 健康や安全に気を付け、進んで運動しようとする態度を育成する。
(元気でがんばる 泉っ子)

② 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

しっかり学ぶ

- ・ 家庭学習の充実を図り、基礎基本の定着を目指す。
- ◇ 学習センターとしての図書室機能の充実を図り、確かな情報収集・処理能力を育成する。

よりよく生かす

- ◇ ICT 機器の効果的な活用を推進し、課題解決能力の向上を図る。
- ◇ 職業人を招いたキャリア学習を通して、自らの生き方を考える機会を設ける。
- ◇ 小中連携活動を推進し、中学校への期待を高め目標を持たせる。

なかよく生きる

- ◇ 本に親しませ豊かな情操を育む。（読み聞かせ、ICC 文庫）
- ◇ 栽培活動を充実させ、体験活動や地域との交流体験を実施する。
 - ・ 各学年の越戸川清掃活動を通し、勤労・ボランティア精神の涵養を図るとともに、郷土愛を育む。
- ◇ 縦割り班活動を推進し、異学年交流を通して、リーダーシップやフォロアーシップを育成する。
- ◇ 明るい挨拶が響き合う学校を目指し、あいさつ運動を推進する。

元気でがんばる

- ◇ 目的をもって運動に取り組み、運動に親しむ環境づくりを行う。
 - ・ 健康チェックカード、検定カード、頑張りカード等を活用し、健康の保持増進と体力向上への意欲を高める。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考える等, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「私は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>1 学習活動の中で, 友達と考えを伝え合ったり, 自分の考えを根拠をもって説明したりする活動を取り入れることで, 考えを深めたり広げたりできるような言語活動の充実を図る。</p> <p>②児童の実社会や実生活に関連した教材・教具を用いる等, 児童の興味・関心を高める工夫をする。</p> <p>③1人1台端末や図書資料等から, 必要な情報を収集し活用する学習活動を適宜設定し, 進んで学習に取り組むことができる環境を整える。</p> <p>④発達段階に応じた自主学習を推進し, 「家庭学習の手引き(泉が丘地域学校園版)」の活用による家庭学習の習慣化に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 86.9%で, 目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 学習活動の中で, 考えを伝え合ったり, 自分の考えを説明し合ったりする際, 学び合う視点を示し, より考えを広げたり深めたりできるようにする。 授業の導入で, 児童の興味・感心を高められるよう, 具体物を提示する等手立てを工夫していく。 1人1台端末を情報収集や学習したことまとめる作業等, 効果的な場面を選択しながら活用していく。 「家庭学習の手引き」を全学年にプリントで配付し, 活用できるようにする。家庭学習強化週間を年1回程度(秋頃)実施し, 学校と家庭で連携して家庭学習の習慣化に努める。</p>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童(生徒)は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①道徳的価値を実生活の中から捉えられるような道徳科の授業を実践し, 生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。</p> <p>②係活動や当番活動, 縦割り班活動等, 周囲のために活動する場を積極的に設定し, 自己有用感を高める。</p> <p>③人権に関する標語等を作成し, 効果的に掲示することにより, 人権尊重の精神を涵養する。</p>	B	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答率は 92.4%で, 目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 全校児童集会や縦割り班活動を工夫し, 児童同士が触れ合える場を設定するとともに, 学級における認め合いの場の充実を図る。</p>
	<p>A 3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「私は, 夢や目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①本時のめあてを明示し, 課題に対して見通しをもたせ, 解決に向けて粘り強く取り組むことができるよう配慮し, 「よく考えた, 分かった, できた」という喜びを味わえる授業づくりに努める。</p> <p>2 児童が自己肯定感を高められるよう, 係活動や委員会活動等で活躍できる機会を工夫して設けていくとともに, 各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め, 称賛する機会を積極的に設ける。</p> <p>3 学校や学年のホームページで授業や学校行事等で粘り強く取り組んでいる様子を紹介する。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 86.7%で, 目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 児童が達成感や成就感を味わえるような活動を取り入れ, 粘り強く頑張ることができる心を育てていく。また, 児童の主体性を重視した活動や互いのよさを認め合う機会を設ける等, 工夫改善を続けていく。 キャリアパスポートの内容に関連付けて児童が自分を振り返ったり, 教師や保護者が努力を認め励ましたりしていく。</p>

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>1 保健委員会からの呼び掛けや生活習慣チェック等を通して、児童が自分の健康状態を意識し、生活習慣（食事・運動・歯磨き・姿勢・スマートフォンやタブレット、ゲーム機の使い方等）を見直しているようにする。 2 交通安全、生活安全、災害安全について、避難訓練や交通安全教室等を通して指導し、自分の身は自分で守る意識を高め、適切な判断力と行動力を身に付けさせる。 3 学習内容に合わせて栄養教諭や家庭と連携を図りながら、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成と食事マナーの定着を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は91.7%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 新たに「目の健康」や「姿勢」の指導を委員会活動として取り組んだ。また学校保健・給食委員会では、児童・保護者・教職員・学校医が一斉に介して協議し、健康課題に向き合う等の工夫した取組を実施した。児童が主体的に活動する取組を継続する。 生活の仕方や遊びのきまりについて改めて整理した。全職員共通理解の下、繰り返し児童に指導することで、校内での事故や怪我の予防に努めていく。 来年度、児童一人一人の判断力をさらに高めるために状況を工夫した訓練を実施するように努める。 今年度の取り組みを継続しながら、児童が健康的な食習慣に関する知識を身に付け、実践できるような機会や場の充実を図るよう努める。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りとの協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①日々の活動について、キャリアパスポートで設定しためあてに沿って振り返る時間を設け、記録を蓄積し、自分自身のよさや成長を実感できるように努める。 ②係活動や当番活動等、周囲のために活動する場を積極的に設け、称賛することで自己有用感を高める。 ③縦割り班活動や児童会活動等の充実を図り、異年齢集団と関わる場を通して、上学年から学んだり下学年の支えになったりするよさを実感できるよう支援する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は86.7%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 キャリアパスポートの記録の蓄積や振り返りにより、児童の自己肯定感や自己理解に役立てる。 係活動や当番活動など誰もが活躍できる場を設定するとともに、活動の途中で振り返りの時間を確保し、意欲をもって活動を継続できるように努める。 縦割り班による共遊や高学年による低学年への登校後の朝の支度や清掃の手伝いの活動等により、自己肯定感や自己理解を育む。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、外国語活動(英語)の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>1 英語でのやり取りを中心とした授業を展開および授業以外の時間も活用して児童が英語に慣れ親しむ機会が多くなるようにする。 2 ALT を多くの場面で活用し、外国語科・外国語活動の授業改善の工夫や生きた英語に触れる機会の充実を図る。 3 本校として大切にしている『 Smile, EyeContact, ClearVoice, Response 』の4点を意識した児童のやりとりや発表を全体に共有して称賛したり、児童が達成感や満足感を味わえる声掛けをしたりすることで、言語活動の充実を図り、進んで英語を使おうとする態度を養う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 83.3%で、目標を下回った。 【次年度の方針】 授業の中で、児童のやり取りの様子を称賛したり、達成感や満足感を味わえる声掛けをしたりして自信をもてるようにする。 ALT による読み聞かせや掲示物等で外国語に触れる機会を増やす。 授業の中で、教師が外国語の使用場面を増やすことで、児童の外国語での発話機会を増やす。</p>

	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①社会科・総合的な学習の時間における「宇都宮学」の充実を図り、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。</p> <p>②各教科・領域と宇都宮学とを関連付け、児童が宇都宮の良さを実感できるように、学年に応じて指導する。</p> <p>③宇都宮産の食材を使った給食を栄養教諭により紹介することで、地域の良さに気付かせ、郷土への関心を高める。</p> <p>④道徳科の授業において、「道徳科地域教材」を活用し、郷土愛について考える時間を設ける。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 87.9%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 各教科と宇都宮学とを関連付け、児童が宇都宮の良さを実感できるように、学年に応じて指導する。 地産地消について栄養教諭が紹介することで、地域の良さに気付かせる。</p>
<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①教職員が ICT 機器の特性を知り、授業で効果的に活用できるよう、校内研修等で技能向上を図る。 (新しい機能やツール、児童用デジタル教科書の活用等)</p> <p>②GIGA スクール構想における 1 人 1 台端末の活用について、児童が端末に慣れ親しみ、学校や家庭で適切に活用することができるよう、授業において計画的に指導する。</p> <p>③各教科及び各種年間指導計画に図書館の利用を適切に位置付けるとともに、司書と連携を図り、学習に活用するための図書資料を計画的に準備し、学習環境を整える。</p> <p>4 学年に応じて情報モラル・デジタルシティズンシップの指導も行い、1 人 1 台端末等を正しく活用できるように指導する。</p> <p>5 ICT 機器を活用した児童の活動の様子を、学校HPや各種だより等で積極的に発信していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 87.6%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 年間指導計画や、過去の貸出資料データを基に、担任と司書で連携し、図書資料を有効に活用していく。 児童が資料を使った学習にスムーズに取り組めるよう、目次や索引、見出しへの注目の仕方等を指導し、活動を支援していく。</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①授業での該当単元において、SDGs との関連を図りながら身の回りの課題を探究的に解決していくことにより、地域や社会に目を向け、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p> <p>②広報・福祉 JRC・揭示委員会の児童が各委員会の取組と SDGs につながる活動を紹介したり、揭示を工夫したりする等、全校生への周知・啓発を図る。</p> <p>③環境問題やエネルギー問題等から、節電や節水、リサイクル等に取り組む習慣を身に付けさせ、「持続可能な社会」につながることを指導していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.7%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 各種委員会と連携して、SDGs につながる活動を紹介したり、揭示を工夫したりする等、全校生への周知や啓発を図り、自分たちの生活とつながっていることを実感できるようにする。 授業での該当単元において、SDGs との関連を図りながら、身の回りの課題を探究的に解決していくことにより、「持続可能な社会」につながることを指導していく。</p>

<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童（生徒）の実態に応じて、適切な支援をしている。」⇒職員の肯定的回答 95%</p>	<p>①特別な支援が必要な児童の実態や支援の手立てについて、全職員で共通理解を図り、迅速かつ組織的な対応にあたる。</p> <p>②特別支援学級に限らず、通常の学級においても特別な支援を必要とする児童について、個別の指導計画を作成し、全職員で共有し計画に基づいた支援を行う。</p> <p>③特別支援コーディネーターや担任との連携のもと、かがやきルームの効果的活用を図るとともに、少人数指導等、個に応じた指導の充実に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 職員会議等の児童に関する情報交換等を活用し、特別な支援が必要な児童の実態や支援の手立てについて共通理解を図り、必要に応じて適宜ケース会議を設定し迅速かつ組織的な対応ができるようにする。</p> <p>特別な支援を要する児童について個別の指導計画を作成し、外部機関や家庭と連携を図りながら、児童の実態に応じた適切な支援を行うようにする。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①いじめは絶対に許されないという考えのもと、教職員によるいじめ防止に関する日常的な指導や「泉が丘小いじめ防止基本方針」に基づき共通理解を図り組織的に指導にあたる。</p> <p>②いじめアンケート、教育相談を通して、いじめの早期発見に努めるとともに、被害者の立場に立って継続的に関わることにより、確実な解消を目指す。</p> <p>③児童会が主体となって、呼びかけや「いじめゼロ運動」を展開し、一人一人がいじめに対する正しい判断力や行動力を持つことができるようにする。</p> <p>④人権に関する標語等を作成し、効果的に掲示することにより、人権尊重の精神を涵養する。(A2再掲)</p> <p>⑤児童指導だよりを年に数回発行し、いじめを防止する取組について保護者に向けて知らせる。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は 82.5%で、目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 教職員によるいじめ防止に関する日常的な指導や「泉が丘小いじめ防止基本方針」に基づいた組織的・計画的な取組を推進する。いじめの未然防止、早期発見・早期対応のための全児童対象としたいじめの実態調査を年4回実施する。実施後は教職員間で共有し、必要に応じてケース会議を開き、児童への支援方法や再発防止策を考えていく。</p> <p>児童会が主体となっていじめゼロ運動や人権に関する啓発運動を行い、一人一人がいじめや人権に対する正しい判断力や行動力をもつことができるよう指導・支援していく。</p> <p>児童指導だよりを年2回作成し、保護者にもいじめに対する取組を発信する。今後も、いじめ防止に関する取組を行った際にはHPや学年だよりを通じて保護者に向けて周知する機会を増やせるように努める。</p>
<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、不登校を生まないうよう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①道徳科の授業や学校生活全体を通じて、心の教育の充実を図る。</p> <p>②児童が自己肯定感や自己有用感を高められるよう、帰りの会等で互いのよさや努力を認め合う機会を設けるとともに、係活動や委員会活動で児童一人一人が活躍できる場の設定を工夫する。</p> <p>③Q-U等を生かした学級集団の実態把握と分析を行い、どの児童にとっても自分の居場所となるような温かな雰囲気学の学級経営に努める。</p> <p>④スクールカウンセラーの周知を継続的に行い、教育相談体制やケース会議の充実を図るとともに、常時、適時に児童の様子を共有し、児童の心のケアを行う等、学校全体で迅速に対応する。</p> <p>⑤児童指導だよりや学年だよりを通して児童ひとりひとりのよさを認め育てる取組について保護者に向けて知らせる。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は 92.6%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 道徳科等の授業を通して、心の教育の充実を努める。児童が自己肯定感を高められるよう、一人一人のよさを発揮できる場を設定したり、授業・帰りの会等で児童のよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設けたりする。</p> <p>Q-U等を生かした学級集団の実態把握と分析を行い、学業指導の考えに基づき、帰属意識と規範意識を高める学級経営を行う。</p> <p>家庭や外部機関と連携して、不登校を生まない取組を推進するとともに、年2回の教育相談、スクールカウンセラー等を活用した教育相談体制の充実を図り、児童の心のケアに努める。</p> <p>児童指導だより等各種たよりを通じて児童の様子を知らせる取組を、今後も継続していく。</p>	

<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、児童（生徒）の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいきいきと学校生活を送れるようにしている。」⇒保護者の肯定的回答90%以上</p>	<p>①学校行事や縦割り班活動に、児童の願いや思いを反映させ、意欲的に参加できるようにする。</p> <p>2 児童が、互いの国籍や文化の違い等を認め合い尊重しながら生活できる態度を育てる。</p> <p>3 学校生活アンケートやQ-U、年間2回の教育相談を実施し、児童の悩みに寄り添いながら問題の早期発見・解決に努め、保護者と情報を共有できるようにするとともに、よりよい学級経営に努める。</p> <p>4 児童が一人一人のよさを発揮し、自己肯定感を高められるよう、授業や帰りの会等で児童のよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設ける。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答率は91.3%で目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 学校行事や縦割り班活動では、児童の主体性や創造性を大切にしながら、意欲的に参加できるようにする。 児童に寄り添いながら、問題の早期発見・解決に努めていく。 児童一人一人の人権を大切にするとともに、児童のよさや努力を積極的に認める場を設け、児童の自己肯定感を高められるようにする。</p>
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫する等、きめ細かな指導をしている。」⇒児童・保護者の肯定的回答85%以上</p>	<p>1 本時のめあて（育成を目指す資質・能力）を明確にし、児童と共有することで各教科等における見方・考え方を働かせながら主体的・対話的で深い学びを実現し、「分かる授業」の実践に努める。 振り返りでは、本時の学びを文章で書く活動を充実させ、児童自身が自分の学びを振り返るとともに、教師は児童の記述の内容から次時の授業づくりにつなげる等、授業改善に努める。</p> <p>2 発達段階に応じた個別最適な学びと協働的な学びの機会を設けることにより、基礎・基本を確実に習得させ、あらゆる場面で活用できる力を育成する。また、1人1台端末を有効に活用する。</p> <p>3 学年内で授業研究を行い、研究成果を教職員が伝え合うことで、学校全体の指導力向上を図っていく。また、成果や課題について相互に意見を交換し、理解し合う機会を繰り返し設けていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は95.9%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 本時のめあてを明確にし、児童と共有することで「分かる授業」の実践に努める。 書く活動を充実させるために、振り返りの視点を作成し、児童自身が自分の学びを文章で書けるようにする。教師は、児童の記述をもとに授業改善に努める。 基礎・基本を確実に習得させるために、全教職員で共通理解を図り、朝の学習の時間を充実させる。 場面に応じて、1人1台端末を有効に活用していく。 日々の授業の成果や課題について相互に意見を交換し、理解し合う機会を繰り返し設けていく。</p>
<p>4-(2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答85%以上</p>	<p>1 学校経営計画（グランドデザイン）を基に、担当する校務分掌において、個々の専門性を生かしながら質の向上を目指すとともに、連携・協力をさらに深め業務の円滑化に努めていく。</p> <p>2 事務職員・司書・栄養教諭・養護教諭・助教諭・少人数指導・専科教員・かがやきルーム担当、サテライト教室担当、スクールカウンセラー等と連携を密にした教育環境整備や児童支援を行う。</p> <p>③報告・連絡・相談を徹底し、早期的な問題の把握と組織的な対応に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 学校教育目標の共通理解と共通実践を図ることで、組織としての対応力・課題解決力の向上を目指す。 各教職員や専門職が有する個々の専門性や強みを組織全体に還元する取組を一層進める。 報告・連絡・相談を合言葉に全教職員で情報共有を図っていく。</p>

<p>4-(3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>1 現在の日課を継続し、放課後の時間を有効に活用する。また、日直業務の精選、リフレッシュデーの設定等により、業務の効率化に努める。</p> <p>②ミライムや学習情報システム、さくら連絡網等のネットワークソフトウェアを活用し、ペーパーレス化等に取り組み、事務に費やす時間の短縮化を図っていく。</p> <p>2 教職員で業務改善に向けた意見を出し合い、具体的に改善に取り組むとともに、教職員一人一人のさらなる意識改革を目指す。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 94.9%で、昨年度を5%上回り、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 短縮日課や ICT 活用等、これまでの働き方改革の取組を継続・定着させるとともに、教育効果と業務負担のバランスを意識した校務の精選・見直しを進める。</p> <p>教職員が主体的に業務改善について意見を出し合い、実行・検証を繰り返すことで心理的なゆとりを生み出し、教育の質の向上につながる勤務環境の構築を目指す。</p>
<p>5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>1 地域学校園内の小中学校と連携し、各部会・分科会で協働しながら小中一貫のカリキュラムの取組の充実を図る。</p> <p>2 一人配置職員の連携を密にし、持続可能な校務運営と教育活動を計画・実践していく。</p> <p>3 小中合同清掃や乗り入れ授業、宮っ子チャレンジの受入れ、合同あいさつ運動、特別支援学級交流会等、地域学校園が連携して行っている教育活動について学校HPや各種たより等を通じて積極的に情報発信し、「小中一貫教育」の取組みへの理解を高めていく。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 92.3%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 地域学校園内の小中学校との連携を継続し、各部会・分科会における協働を通して小中一貫カリキュラムの充実を図る。</p> <p>合同清掃や乗り入れ授業、交流活動等の取組について積極的に情報発信を行い、小中一貫教育の成果や教育効果を「見える化」することで、教職員・児童・保護者・地域の理解を一層深めていく。</p>
<p>5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 地域協議会や民児協関係者との情報交換会で授業力向上や児童指導に関する情報の共有を図りながら、地域との連携をさらに高めていく。</p> <p>②読み聞かせボランティア、ICC 文庫ボランティアによる読書活動や学校支援ボランティアによる教科等での協力体制の充実をさらに図り、その様子を学校HP、各種たより、校内放送等を通じて情報発信し、活動への理解を深めていく。</p> <p>2 学習のねらいに則した出前授業を積極的に活用し、企業と連携を図りながら教育活動を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は 92.5%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 地域協議会や民児協関係者との情報交換で、多角的・多面的視野で意見を交換することで、学校経営方針に反映させていく。</p> <p>学校支援ボランティア、企業等との連携を教育課程に位置付けた協働的な取組として充実させる。実施した出前講座やボランティアを活用した学習については、各教科年間指導計画に明記し、いつでも活用できるようにしておく。</p>
<p>6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。(校内の施設、設備、駐車場等)」⇒地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①校内の施設、設備及び校庭の遊具等について定期的な安全点検を徹底し、危険箇所については迅速な対応に努める。</p> <p>4 危機管理マニュアルを全職員で確認し、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、事前事後指導を丁寧に行い、不測の事態への対応に備える。</p> <p>5 年度に応じて掲示等の校内環境を整備し、利用する人それぞれが自発的に安全に気を付けられるよう配慮する。</p>	<p>【達成状況】 地域の肯定的回答は95.2%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 校内の施設及び校庭の遊具等の安全については、全職員が目配り、迅速な対応に努める。</p> <p>利用する人それぞれの安全の意識が高まるよう、掲示を毎年少しずつ更新していく。</p>

<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータ等のデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している。」 ※デジタル・・・一人一台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツール等⇒教職員の肯定的回答85%以上</p>	<p>①教室に実物投影機等を配備したり、有効な物品を教職員で共有したりして、デジタル機器が常に使いやすい状態になっているよう、学習環境を整える。</p> <p>3 1人1台端末の管理を適切に行い、効果的な教材を共有することで、学習活動が円滑に行えるよう取り組む。端末使用の約束については児童と保護者に定期的に周知し、正しい使い方を身に付けさせる。</p> <p>4 ICT支援員と連携し、児童が授業等において、1人1台端末を効果的に活用できるように支援し、主体的・対話的で深い学びを促進し、児童の情報活用能力を育成する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 端末の適正な利用について児童に指導し、保護者には定期的に周知しながら、正しい使い方を身に付けさせる。 ICT支援員と連携して、教材研究に取り組んだり、授業において端末を効果的に活用したりする等、授業の質を高めていく。各学年の発達段階に合わせて端末を活用し、児童の情報活用能力を育成していく。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じた挨拶をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、時と場に応じた挨拶をしている。」⇒児童の肯定的回答85%以上 「児童（生徒）は、時と場に応じた挨拶をしている。」⇒地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>①児童が主体となって取り組む挨拶運動等についてHPや各種たより、回覧板等も活用して積極的に発信し、挨拶の啓発を行う。</p> <p>②児童会活動を通して、挨拶の仕方や大切さを伝え、児童が自ら挨拶できるようなきっかけづくりを行う。また、学級活動や道徳科等の授業を通して、発達段階に応じ、挨拶の意義や心的効果について指導し、校内及び地域の方々への自発的な挨拶の啓発に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は、88.3%、地域の肯定的回答率は、95.5%で目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 時と場に応じた挨拶やマナー、言葉遣い等について指導を継続し、地域の方々への自発的な挨拶の啓発に努める。 「あいさつ運動」については、児童会が主体となり、今年度の取組を継続していく。</p>
	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答85%以上</p>	<p>1 生活目標を「泉が丘小学校の一日」と関連付けて提示し、日々振り返ることで、秩序ある充実した学校生活を送ることができるようにする。</p> <p>2 生活当番による児童の実態に合わせた「生活目標」の焦点化と、目標達成に向けた指導を行うとともに、帰りの会等で振り返りを行い、達成状況を確認する。</p> <p>3 決まりやマナーを守った行動に対し、児童が互いに認め合う機会や教職員の称賛によって意識付けながら自己指導能力の育成を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は、90.6%で目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 「泉が丘小学校の一日」のきまりについて、全教職員共通理解のもと指導にあたる。 きまりやマナーについて学級で話し合うなど、児童自身が考えられるような機会を設ける。</p>
	<p>B3 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、休み時間や放課後等に積極的に運動している。」⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>1 児童が扱いやすい体育用具等を整備し、児童の運動への興味・関心を高める。</p> <p>2 保健領域と関連付け、健康の保持増進のために、自己の健康に関心をもたせるとともに、運動に親しませ、外遊びを奨励する。</p> <p>3 体育科の授業での課題選択できる場の設定、児童が自ら運動参加することに繋がる授業展開、運動委員会主催による企画の実施等、児童が進んで運動できる機会を創出する。</p> <p>④新体力テストの結果を活用した授業の補強運動などに取り組むことを通して、基礎体力や運動技能の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は、75.2%で、目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 目標としたいのは「健康のことを考えて適度に運動している」姿であり、具体的な取組にある方向性を基本として、今年度の取組を継続していく。 目標を「児童は、自分の健康を考えて適度に運動する習慣を身に付けている。」とし、質問項目を「児童は、休み時間や放課後に、週に2回以上運動している。」と設定してはどうか。</p>

	<p>B 4 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、学校だよりや学校公開等で、積極的に情報を発信・提供している。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>1 さくら連絡網による連絡事項の速やかな伝達、学校HPによる学校や学年での児童の活動の様子の伝達と、2つのツールを有効活用しながら情報の発信を工夫していく。</p> <p>2 授業参観やオープンスクールを実施し、学校での教育の様子を保護者・地域に公開し、地域と共にある学校を目指す。</p> <p>3 地域協議会や民児協関係者との情報交換会で、授業力向上や児童指導に関する情報の共有を図りながら、地域との連携をさらに高めていく。 (A18 再掲)</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は 97.2%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 さくら連絡網と学校HPの特性を生かした情報発信を継続し、迅速な連絡に加えて、教育活動のねらいや成果がより伝わる内容の充実を図る。 学校公開や地域協議会等を通して得られた意見や評価を学校運営に反映させ、双方向性のある情報発信と教育活動の改善につなげていく。</p>
	<p>B 5 学校は、地域の自然や環境、人材を積極的に活用し、豊かな教育活動を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、地域の自然や環境、人材を積極的に活用しながら、豊かな教育活動を推進している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>1 児童の実態や発達段階を踏まえ、各教科・領域において地域の教育資源や人材、資料等を活用し、地域のよさについて理解させる。</p> <p>②生活科・総合的な学習の時間の学習活動や花壇・農園整備等において、地域や保護者から構成される学校支援ボランティアを積極的に活用しながら、教育効果を高めていく。</p> <p>③読み聞かせボランティア、ICC 文庫ボランティアによる読書活動や学校支援ボランティアによる教科等での協力体制の充実をさらに図り、その様子を学校HP、各種たより、校内放送等を通じて情報発信し、活動への理解を深めていく。 (A18 再掲)</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は 92.6%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 地域の自然や人材を活用した教育活動を継続・発展させるため、学校支援ボランティアの登録・活用体制を安定的に運用する。 生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域資源が児童の学びをどのように深めたかを振り返り、成果を共有することで、持続可能な地域との協働体制の構築を目指す。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

【学校運営】

- ・ A15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して取り組んでいる。」の教職員の肯定回答が高い評価となったことは、本校の組織運営の最大の成果である。事務職員・養護教諭・栄養教諭・司書・専科教員・かがやきルーム担当・通級指導教室担当・スクールカウンセラー等の多様な専門性が、個別の対応に留まらず「組織の力」として統合されていることを示している。
- ・ A16「勤務時間を意識して業務の効率化に取り組んでいる。」の教職員の肯定回答が昨年度より大幅に向上した。日課や ICT ツール（さくら連絡網、ミライム等）の活用が、教職員の「業務を効率化しよう」という主体的な意識改革に結び付き、これにより生み出された「時間のゆとり」と「気持ちのゆとり」が、教育活動の質の維持・向上を支える好循環を生み出していると考えられる。
- A17「学校は『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」では、一人配置職員が、それぞれの学校の業務にとどまらず、学校園全体のバランスを考慮しつつ連携することにより、相乗効果を生み出すことにつながった。引き続き、地域学校園の組織や研修の場を活用して、さらなる教職員同士の情報交換や取組の検討に努めていきたい。
- ・ A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」では、教職員・地域住民・児童・保護者についても、高い評価を得られた。学校支援ボランティアや見守り隊など多くの地域の方々や外部人材の協力をいただき、児童の学習や活動、安全の充実が図られている成果と考えられる。今後も「地域に開かれた学校」を目指して取り組んでいく。
- ・ B4「学校は各種たよりやHP、学校公開等で、できる限りの情報を発信・提供している。」では昨年度に引き続き、良好な結果が得られた。今年度も児童の様子や教育活動の取組について、学校HPで積極的に情報提供してきたことが結果に結び付いたと考えられる。

【学習指導】

- ・ A1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考える等、主体的に学習に取り組んでいる。」では、学習活動の中で、考えを伝え合ったり、自分の考えを説明し合ったりすることを通して、

より考えを広げたり深めたりできたと考えられる。今後は、児童の興味・感心を高められるような工夫をしていく等、より主体的に学習に取り組めるよう努める。また、「家庭学習の手引き」を全学年に紙ベースで配付し、活用できるようにするとともに、家庭学習強化週間を計画的に実施し、学校と家庭で連携して家庭学習の習慣化に努めていきたい。

- ・ A6 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」では、英語を使ってはいるものの、自信をもってコミュニケーションができているとは感じていないと考えられる。授業の中で、児童のやり取りの様子を称賛したり、達成感や満足感を味わえる声掛けをしたりして自信をもてるようにする。
- ・ A7 「児童は、宇都宮の良さを知っている。」では、各教科と宇都宮学とを関連付け、児童が宇都宮の良さを実感できるように、学年に応じて指導したことがこのような結果につながったと考えられる。授業以外の場面でも、地産地消について栄養教諭により紹介することで、地域の良さに気付かせる等、宇都宮の良さに触れる機会を作っていく。
- ・ A9 「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」では、各種委員会と連携して取り組み、SDGsにつながる活動を紹介したり、掲示を工夫したりする等、全校生への周知や啓発を図り、自分たちの生活とつながっていることを実感できるようにしたい。また、授業での該当単元において、SDGsの関連を図りながら身の回りの課題を探究的に解決していくことにより、「持続可能な社会」につながることの指導を継続していく。
- ・ A14 「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」では、本時のめあてを明確にし、児童と共有することで見通しをもった「分かる授業」の実践に努めたことがこのような結果につながったと考えられる。今後は、書く活動を充実させるために、振り返りの視点を作成し、児童自身が自分の学びを文章で書けるようにしていきたい。教師は、児童の記述をもとに授業を振り返ったり、日々の授業の成果や課題について相互に意見を交換したりすることで、授業改善に努めていきたい。

【児童指導】

- ・ A5 「児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」では、学級の係活動や当番活動、異学年による縦割り班活動などを計画的に行うことができたことが、高い評価に結びついたと考えられる。今後も自分のよさや成長を実感できるようにしていく。
- ・ A10 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」では、日々の児童の様子をしっかりと見取り、必要に応じて支援を行ってきた結果と考えられる。次年度も引き続き児童の実態に応じた、適切な支援を行っていく。
- ・ A3 「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」では、引き続き、定期的なアンケートの実施や普段の児童観察等から、担任を中心に積極的に居心地のよい学級づくりを行っていく。また、自己肯定感を高められるよう、係や委員会活動などで活躍できる機会を設け、児童に寄り添った指導を心がけるようにする。
- ・ A11 「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」では、家庭への周知の機会を確保し、いじめ防止に関する取組を行った際には、HPや学年だより等などを通じて情報を発信していきたい。
- ・ A12 「教職員は不登校を生まない学級経営を行っている。」では、引き続き担任が居心地のよい学級づくりに努めるとともに、児童の小さな変化を見逃さないように児童とのコミュニケーションを図り、必要に応じて保護者への連絡を行っていく。

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・ A4 「健康や安全に気を付けて生活している。」では、教職員の指導の工夫や、委員会での児童の主体的な取組により、児童が健康や安全に関する知識や関心を高めることができた。自ら判断したり行動したりしながら健康や安全に努めていける実践的な力を育んでいきたい。
- ・ A8 「デジタル機器や図書等を学習に活用している。」では、ICTの活用に児童も教職員も慣れ、内容や場面を選びながら授業の中で効果的に活用できるようになってきた。次年度においては、資料から内容を読み取る力の育成を図るため、司書と連携して図書資料も活用して力を高めていきたい。
- ・ A20 「コンピュータ等のデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。」では、端末の故障・破損が多く発生しているため、端末の適正な利用について児童や保護者に定期的に指導・周知しながら、正しい使い方を身に付けさせたい。
- ・ B3 「進んで運動する習慣を身に付けている。」では、目標としたいのは「健康のことを考えて適度に（週に2～3回程度）運動している」姿であり、目標や質問項目の文言をねらいに即して整理することも検討したい。

7 学校関係者評価

- ・ 学校を訪問した際に、児童から挨拶してくれる子が増えたと思う。「一人は一校を代表する」というが、一人からでも元気な挨拶をもらえると、とても清々しく感じる。

- ・下校指導の際、挨拶を呼び掛けていると半数以上の子が挨拶を返してくれる。中には「いつもありがとうございます。」と優しい言葉をかけてくれる子もいて嬉しく思う。
- ・読書ボランティアと ICC 文庫で、お礼状が届いた。とても丁寧な文字と文章で、たいへん感激した。
- ・挨拶に関しては、ばらつきがあるように思う。以前（10年程前）の方が、元気があったように感じられる。
- ・下校時、歩道いっぱいに広がって歩いている児童や、信号が青に変わったとたんに横断歩道に飛び出す児童を見かけてひやひやすることがある。
- ・階段ですれ違う際に、道を譲ってくれたり挨拶をしてくれたりと思いやりを感じる。校外でのあいさつは、まだ少ないように感じる。
- ・学校は廊下に物を置くなどして、児童が走らない環境づくりの工夫をしていると感じる。
- ・体育館などに忘れ物がたくさんあるので、物を大切にしようとする意識に課題があると感じる。
- ・児童が自分に厳しく評価をすることで自己を振り返ってるのかもしれないが、全体的に見て、児童・保護者が厳しい回答となっていると感じた。アンケートが自分の行動を見直すきっかけになるとよい。
- ・小学生時代から下校時見守りしていることで顔が分かっているのか、中学生から挨拶されることがある。
- ・元気よくあいさつをされると、お互いに気持ちがいい。
- ・歩道からはみ出して歩いている児童がいるので、何回か注意をしたことがある。
- ・低学年の下校の見守りで、挨拶や安全について実感をするのは、児童の内面のよさが、表情や行動によく表れていると感じる。
- ・プロムナードを通る際に、体育の授業の様子をみると、教員と児童のよい関係を垣間見ることができると感じる。
- ・子供会における児童の様子もとてもよく、誇りに思う。
- ・孫が小学生（低学年）だった時に、担任の教員が給食時に児童に寄り添って支援をしてくれたことが嬉しかった。教員から掛けられた一言で救われたように感じたことがある。
- ・下校の見守り中、子供たちの方から元気に挨拶をしてくれる子も多数いる。しかし、中には挨拶をしない児童が若干いる。
- ・散歩している際に下校中の児童に会うと、児童から先に大きく元気な声で「こんにちは。」とあいさつをしてくれて元気をもらえる。
- ・挨拶は、低学年の児童は積極的に挨拶をしてくれる。高学年は恥ずかしさもあるのか、こちらから挨拶をすると返してくる印象がある。
- ・以前地域のキャラクター募集をした際に、児童が地域との関わりをよく考えてくれている応募があつて感銘を受けた。
- ・さくら連絡網は状況がすぐにわかり素晴らしい。
- ・地域と小学校でコラボをして取り組めるものがあるとよい。そして、泉が丘地域がさらに活気が増すとよい。
- ・登校や下校の時、「おはようございます。」「こんにちは。」など、元気に挨拶をしてくれる子が多い。
- ・保育園との交流の際は、幼児に対する言葉かけが優しかったり、様子を見ながら無理なく関わろうとしてくれていたりする姿が見られ思いやりを感じた。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・全質問25項目において、22項目で目標が達成された。様々な手立てを講じ、学校での取り組みを周知したり、地域や保護者と連携して児童の支援に当たったことが評価となって表れたと考える。
- ・拡充項目とした5項目（A6・A11・A12・A20・B3）については、目標を達成した項目は2項目（A12・A20）であった。次年度においては、達成できなかった3項目（A6・A11・B3）を引き続き拡充項目とし、B1もあわせて工夫改善を図っていきたい。
- ・挨拶については、児童によって習慣化に個人差があることが分かる。次年度においても、挨拶運動を行ったり、教職員から挨拶を呼び掛けたりして、挨拶の習慣化を図っていきたい。
- ・地域住民からの評価がすべての項目において高い評価となっているのは、地域が児童を温かく見守ってくれていることが評価に表れていると感じる。次年度においても地域・家庭・保護者と連携して、「いいね」であふれる学校を目指していきたい。